

ながさき歴史ギャラリー

第4回



南蛮人来朝之図

筆者不詳

慶長年間(1596年～1614年)頃

六曲一双屏風 紙本着色 各168.0×390.0cm

国旧認定重要美術品

長崎県所蔵

【作品について】

南蛮 屏風と称されるもので、右隻に南蛮商人一行と南蛮寺、左隻に南蛮船の入港と荷揚げの光景が描かれている。

南蛮屏風の成立については、肥前名護屋城造営にかかわった狩野派一門の絵師たちが、長崎まで足をのばし、南蛮風俗をスケッチして帰ったことを始まりとする説が有力視されている。この屏風は、題材が交易の場面を中心としたためか、北海道・松前の廻船問屋に伝えられたものである。

南蛮とは、ポルトガル、スペイン両国のこと

平成17年度に新美術館と新歴史文化博物館が開館します。このギャラリーでは、そこに展示されることとなる貴重な作品や歴史史料を紹介していきます。



初めての異国

島田楊子 =文
Text by Shimada Yoko

プロフィール しまだ ようこ
熊本県出身。1971年、テレビドラマ「続・氷点」のヒロイン役でデビュー。以来、数多くのテレビドラマ、映画に出演。1979年には米国のテレビドラマ「将軍」のヒロイン役に抜擢され、日本人女優として初めてゴールデン・グローブ賞「主演女優賞」を受賞。2002年には鄭成功の生涯を描いた「国姓爺合戦」に鄭成功の母、田川マツ役で出演。



千里ヶ浜(平戸市)にある児誕生石。この石にもたれて、マツは鄭成功を産んだと言われている。

私はずっと、長崎のことを「父を通して」見てきたような気がします。幼い頃、父はいつも私を膝に乗せて大好きな長崎の話をし、長崎に何度も連れて行ってくれました。幼かった私にも、父を通して、長崎を通して、まだ見ぬ異国の薫りと存在がはっきりと感じとれました。私にとって長崎は、初めての「異国」なのです。

鎖国時代、西洋との唯一の窓口であった長崎ですから、新しいものを怖がらずに真っ先に取り入れる、過去にとらわれず前向きに生きていく、そんな力はどこよりも強いのではないのでしょうか。

長崎県には私の知らないまちがたくさんあります。今度は海がきれいな「しま」にも行ってみたいですね。豊かな自然がつくりだす美しい風景、新鮮な海の幸、山の幸、訪れる楽しみがいっぱいです。

中国の多彩な文化をもたらした日本黄檗宗の開祖。

長崎偉人館
第12回

隠元

【唐僧】
(1592年～1673年)



隠元は、一五九二年(天正二十年)、中国の福建省に生まれ、若くして僧となり、黄檗山萬福寺(福州)の住職も務めた。

一六五四年(承応三年)、長崎在住の中国商人の依頼を受けた興福寺(長崎市)の住職逸然の熱心な誘いに応じて、六十三歳で来日。興福寺、崇福寺の住職として長崎に滞在した。

一六五八年(万治元年)、江戸に入った隠元は、四代将軍徳川家綱に謁見し、厚くもてなされた。その後、京都の宇治に、中国時代と同じ名を持つ黄檗山萬福寺を開山し、八十一歳で永眠するまで多くの人々に慕われた。

隠元とその弟子たちは、「いんげん豆」をはじめ、色々な料理の材料や調理法をもたらしたことも知られている。その他建築、彫刻、書画、茶道、医学など、黄檗文化は、さまざまな分野で日本文化に大きな影響を与えた。